図書館だより

2024 年
1 月 26 日発行

秋草学園高等学校 図書館

新しい年を迎えてから１か月が過ぎようとしています。2024 年はみなさんにとってどんな１年になるでしょうか。それぞれが掲げた目標に向かって、頑張っていきましょう。図書館からは今年もみなさんが本と出会える機会をたくさん作れるよう色々な形で情報発信をしていきます。「読んでみたい」と思える本が 1 冊でも見つかれば嬉しいです。3 年生は卒業までに悔いのないよう図書館を使い倒してくださいね。待っています。現在、館内では今月 17 日に発表された第 170 回芥川賞・直木賞受賞作と候補作を展示しています。

第 170 回芥川賞・直木賞が決定！

第 170 回 芥川賞
九段理江さん『東京都同情塔』

第 170 回 直木賞
河崎秋子さん『ともぐい』
万城目学さん『八月の御所グラウンド』

１月 17 日（水）に第 170 回芥川賞・直木賞は決定しました！九段さんは 2021 年にデビューし、２度目のノミネートで芥川賞を受賞。河崎さん、万城目さんはそれぞれ２回目、６回目のノミネートで直木賞を受賞されました。おめでとうございます！！

今回の号では直木賞受賞の２冊を紹介します。芥川賞の『東京都同情塔』もこれから図書館へ新着本として入ってくる予定です。早く読みたいと思っている人には予約がおすすめ！カウンターで手続きしてください。

913.6-カ 『ともぐい』
河崎 秋子 ‖ 著　　新潮社

時は明治。北海道の人里離れた山で一匹の犬と暮らす熊爪（くまづめ）という男。鹿や熊を狩り、野生の一部となって生きてきた熊爪が熊との死闘を経て、自分の生に対する沸き起こる様々な感情と葛藤していく姿が描かれている。本から獣の匂いが漂ってくるのを感じるような物語。

913.6-マ 『八月の御所グラウンド』
万城目 学 ‖ 著　　文藝春秋

彼女にフラれ、炎暑の京都に取り残された俺は、同じ大学に通う多聞の卒業がかかった野球の試合に出させられることになる。寄せ集めの野球チームのひと夏を描いた物語かと思いきや、予想のつかない展開が読者を待っている。８月の京都で彼らが体験したものとは一体。

今年の大河ドラマの主人公は紫式部

280.8-シ 『学習マンガ 世界の伝記 NEXT 紫式部』
塩島 れい ‖ まんが　はの まきみ ‖ シナリオ　　集英社

今なお世界中で読み継がれている『源氏物語』その作者紫式部が生まれたのは 1000 年以上昔の平安時代。漢学者の娘として少女時代から書物を好み、親しんできた彼女はどのような人生を送り、どんなきっかけで源氏物語を書き始めたのか、マンガで読みやすくまとめられた１冊。

913.6-ヤ『あさきゆめみし』
大和和紀 ‖ 原作・絵　時海結以 ‖ 文　講談社

『源氏物語』には“須磨がえり”という、途中まで読んでは中断し、また最初から読み始めるのを繰り返すことを表す言葉があります。防ぐにはまず全体像をつかむが肝心。漫画の『あさきゆめみし』やそれを小説化した本作で、源氏や彼の子孫の７０年に渡る物語に触れてみよう。

新着コーナーの気になる本

S596-ヤ『貧乏ピッツァ』
ヤマザキ マリ ‖ 著　　新潮社

『テルマエ・ロマエ』の作者でもあるヤマザキマリさんによる「食」のエッセイ。イタリア留学時代に食べていた極貧メシ、イタリア人の夫を夢中にさせた日本の栗饅、どの国で食べてもおいしい鍋料理など、自身の体験を交えながら日本とイタリアの食文化をユーモラスに語っている。

B913.6-オ『緑の我が家』
小野 不由美 ‖ 著　　角川書店

両親と距離を置き、一人暮らしを始めた僕。新居の名はハイツ・グリーンホーム。初日そこを訪れた僕は嫌なものを感じてしまう。綺麗なのに暗くて陰鬱なムードが漂うそのアパートで次々と起こる不可解な現象。それは霊の仕業なのか。怖いだけでなく、温かさも備わった物語。

司書の今月はこの本読みました

第 170 回芥川賞が発表された日、私が読んでいたのは**綿矢りさ**さんの**『パッキパキ北京』**です。綿矢さんが『蹴りたい背中』で第 130 回芥川賞を受賞したのは 2004 年１月。19 歳という若さでの受賞は大きなニュースとなりました。当時「『蹴りたい背中』ってどんな背中だ？」なんて思いながら本を手に取ってから早 20 年。またしても「パッキパキな北京って何！？」と書名に引き寄せられました。コロナ禍に夫の単身赴任先である北京で暮らすことになった主人公の超ポジティブでアクティブな生活から北京という街のおもしろさが伝わってきます。**【今井】**